

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	0272100736		
法人名	社会福祉法人つがる市社会福祉協議会		
事業所名	グループホーム安住の里		
所在地	037-0104 青森県つがる市稲垣町豊川宮川143番地1		
自己評価作成日	令和2年9月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	公益社団法人青森県老人福祉協会		
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階		
訪問調査日	令和3年3月12日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

●基本理念の「笑顔でいきいき」を大切に笑顔を決やらず、コミュニケーションが出来る。●行事は特養と合同で開催し、地域住民も参加して交流を深めている。●地域活動では季節に合った景色を見学、ショッピングに出掛け気分転換に努めている。出かけられない利用者は家族も交えて、バイキング屋食を取り入れたり、出前を取って楽しんで頂いている。●誕生月には利用者の好きな食べ物を事前に聞き外食もしている。●利用者本人に合った、食器拭き、エプロン、新聞、おしぼり畳、食事に使用する野菜切りなど軽作業を毎日体調に合わせてしてもらい、本人の自信に繋げている。●正看護師を配置し看取り看護医療の連携に努めている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】**

社会福祉協議会で運営している特別養護老人ホームに併設している。本部の事務と常に連携が図られており、利用者のケアを優先して提供できる体制にある。又、正看護師の配置もある為、安心して暮らすことができる。現在は、コロナ禍において催し物や地域交流が制限されているが、その中でも楽しみをもって暮らして頂けるよう、特に「食」に力を入れた企画を継続して行い、理念「笑顔でいきいきと」が実践されている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員で決めた「笑顔で生き生きと」を理念としユニット内に掲示し日々確認するように努めている。会議時には管理者から常に意識するよう話があり実践出来ている。	職員全員で話し合って決めた開設当初からの理念を掲げている。又、基本方針には「地域」との繋がりを大切にしているものがある。毎月の職員会議や日々のサービス提供時等、理念に基づいたケアや姿勢ができていないか確認している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	特養と一緒に小中学校、保育園、老人会等の来訪施設の祭りをとおし交流を深めている。月に1～2回の地域活動も実践している。(冬期間除く)	コロナ禍による状況の変化があり、事業所への来訪はないが、地域の方がボランティアで草刈をしてくれたり、手作りマスクの寄贈があった。地域の食堂から出前をとったり、可能な範囲で交流を継続できるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	人材育成や職場体験を積極的に受け入れている。職員は認知症実践者研修を積極的に受講し正しい認知症の理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回活動状況ヒヤリハット報告事業、事業報告についての会議を開催し推進委員の意見等を参考にしてサービスの向上に繋がっている。	コロナ禍により、2ヶ月に1回の書面開催になっているが、意見の徴収に関する呼びかけも行われており、新しい取り組みへの意見や、職員への労いの言葉も聞かれ、職員のモチベーションアップやサービスの向上に繋がっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市の担当職員も出席しており課題についての意見、適切な指導助言を受け連携を密に取っている。	本部の事務が中心となり、必要時には適宜連携が図られている。運営推進会議での書面での意見やアドバイス、電話でのやりとり等、協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関は日中センサー作動させ夜間のみ施錠としている。施設内研修では身体拘束について研修を行い正しく理解し身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	内部研修の中で取り上げ、職員全員が参加できるよう整備されている。併設の特別養護老人ホームと合同で、リスク管理も含めた話し合いがされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	認知症実践者研修、管理者による内部研修の機会を持ち事業者内の虐待防止に気を付けるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や社協全体の研修等で地域福祉権利擁護、成年後見制度を学び社協で自立支援事業を実施している。相談の必要時には活用できるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には本人、家族に重要事項説明書で分かりやすく説明し同意を得ている。また本人、家族が心配な点等については話しやすい雰囲気を作り説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見要望等を気兼ねなく話せる環境雰囲気作りに努めている。家族に対しては、行事面会等の参加を呼びかけ情報交換の場を設けている。	家族に対しては、カンファレンス前や状況に応じて電話で確認したり、利用者への差し入れ時、支払い時等に感染対策をしながら聞き取っている。日々のコミュニケーションから利用者の意見や要望を反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は日頃から職員のコミュニケーションを図るよう心掛け、その都度意見、要望を出しやすく努めている。職員会議でも意見要望について話し合っている。	年1回、管理者との面談や職員による3回の自己評価で、意見や要望を聞き取る機会が設けられている。日々の業務の中でも意見を表現しやすいような環境が整備され、反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休暇が取りやすいように配慮しストレスの軽減や心身の健康に努めている。職員の資格を活かした業務分担を行い資格習得に向けて自己啓発している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年1回社協職員合同研修会が開催され、内部研修は併設施設と共に毎月1回受講するようにしている。外部研修は職員が興味のある研修に参加できるように努めている。研修内容は資料と復命書を持って実践に向けて努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域のグループホーム推進会議や西北五グループ連合会議等の研修に参加する事で情報交換サービスの向上に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用開始時には不安要望等に傾聴しつつ、本人が話しやすい雰囲気作りを心掛けてサービス利用となる前に本人や家族にアセスメントを行い生活歴等を把握し理解している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	各職種連携して常にどのように対応したら良いのか話し合いを設け、これまで家族が介護されてきた苦労や経緯現状要望についても傾聴している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設ケアマネ居宅ケアマネと連携をとり短期入所利用の支援等柔軟な対応を行い、本人家族の思いや意向を把握し現在必要なサービスが適切に行えるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	地域住民から野菜等の食材を頂いた時などは利用者に調理方法栽培方法を聞いて教わったり、食器拭きエプロン畳おしぼり畳等の軽作業を毎日利用者職員と一緒にやっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には毎月コメント入りの写真を送り利用者の様子をお知らせしている。利用者の生活状況を伝え情報交換しながら家族に寄り添うように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	月に1～2回の地域活動を実践している。(今年はコロナウイルスの影響で出来ていない。)特養と併設されている為施設内散歩時には友人、知人との交流も出来ている。特養と一緒に小、中学校、保育園、老人会等の来訪、施設の祭りを通して交流を深めている。	敷地内散歩時には、併設された地域密着型の特別養護老人ホームの利用者との交流が図られ、2ヶ月に1回の馴染みの理容院の利用が継続されている。病院受診時には、馴染みの場所に立ち寄る等の工夫がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないよう調整、声掛け等に努めている。又個々の性格個性を把握したうえで利用者同士コミュニケーションが取れるよう職員が支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族や他事業所に対してその後も相談にのれる事を伝えている。在宅復帰を念頭に支援し在宅や他事業所へ移らても家族他事業所と連携し利用者がこれまでの生活、新しい環境でも維持できるよう密に情報交換していくように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思いや意向を引き出し、把握に努めている。意思表示が困難な場合でも、表情や言動の中から本人の思いを理解し職員間で話し合い意向に添えるように努めている。	日々のコミュニケーションを通じ、思いや意向の確認に努めている。表現できない場合は、家族からの聞き取りや、言動から汲み取るよう努め、職員全員の気づきを取り入れ検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活習慣や生活歴は本人や家族からアセスメントし、他事業所からの情報収集も行ってサービス利用状況の把握にも努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の生活リズムを把握して、本人の出来る事を出すように心掛けている。また申し送りや介護記録で心身状態を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身の状態変化、家族の思い、意見を把握しながら介護計画に繁栄させている。また検討会を開催しアセスメントやモニタリングを行いながら介護計画作成をしている。	計画作成担当者を中心に、職員による3ヶ月に1回のモニタリングが行われ、1年毎に介護計画の見直しが図られている。その他、状態変化時には適宜見直しがされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の暮らしや様子、ケアの実践本人の言葉やエピソード等をケース記録に入力して、ケアの統一に繋げている。業務開始前に連絡帳、介護日報を確認して引き継ぎを行い情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	施設内を自由に散策出来る。又機能低下により一般浴が困難になった場合は特養の特浴が利用出来る。本人家族の状況に応じて通院送迎等に柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域包括支援センター、職員や市担当職員と支援に関する情報交換が成されており、地域ボランティア団体近隣住民の把握で、環境整備、災害時の協力を得る事が出来ている。園児、小学生による総合学習、ボランティア等の受け入れをする事で協力関係が成されている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人家族の意向に沿って適切な医療が受けられるよう入居前の診療状況を把握し受診、往診時は看護師が対応している。	本人、家族の意向に沿い、入居前のかかりつけ医の継続や、往診対応の事業所の嘱託医への変更等、臨機応変な対応がされている。専門医の受診・往診時には看護師が対応し、家族・職員への情報共有がされ、適切な医療管理がされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	健康状態等軽微な変化も観察し、看護職員に報告相談し適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリー等で情報提供、入院後も病院関係者と情報交換を行い経過を把握しつつ家族とも連絡を取りながら退院後の支援に繋がるように努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際、終末期や看取りについて説明している。早い段階で本人、家族と話し合い意向があれば 書面に同意を得ている。本人の状況を見ながら家族、嘱託医、職員が同じ情報、方針を共有し個人に配慮した支援が行われるよう努めている。	契約時に、重度化や終末期に関する意向の確認がされているが、状況に応じてその都度思いや意向に即した対応ができるよう整備され、看取りや病院、他の事業所への転居等、方針の共有が図られ、安心したサービスが受けられる様取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成しそれに沿って行動出来るように努めている。併設特養の連絡協力体制も出きている。特養にAEDが設置されている。使用マニュアルがいつでも見れる場所に設置している。職員は応急処置の講習も受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災マニュアルを作成、年2回の火災を想定し避難訓練を行っている。その際防火協力員にも参加を呼びかけている。緊急連絡網の確認、消防署と連携し実際の消化器での消化訓練や避難経路の確認、通報の仕方の訓練も行っている。	地域の消防署の協力を得ながら夜間想定も含め、年2回の火災想定避難訓練がされ、連絡網の整備や消火器訓練等がされている。	地震・水害等、自然災害に対する訓練の計画やシミュレーションをされることに期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員全員が個人情報の取り扱い、秘密保持の徹底を図っている。利用者一人ひとりにあった対応優しい言葉でプライドを傷つけないよう支援している。	接遇に関する研修や守秘義務の徹底が図られている。職員会議で振り返りがされ、業務中でも気になった言動があった際は注意し合える環境にある。特に排泄面での声掛けには配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自分で選択したり決定出来るように、分かりやすい説明に心掛け、利用者との会話を多く持ち希望、要望、思い等が本人から聞き出せるよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の気持ちを優先しながら、一人ひとりの一日の過ごし方を把握しその時の状況に合わせた柔軟な対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	職員と一緒に気に入った洋服等を選んで着ている。本人家族の同意を得て2ヶ月に1回散髪している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	地域住民からの差し入れの野菜、山菜で職員と一緒に下拵えの準備をしたり、食事に取り入れながら毎食の献立に関する事を話題に楽しんでいる。一日2回の茶わん拭き、エプロン、おしぼり畳を自主的に行っている。	事業所独自で、利用者の意見や嗜好、季節の食材を活用したメニューが作成され、下ごしらえの手伝いや、茶碗拭き等の役割も職員と共に楽しみながら食事の支度や後片付けがされている。誕生日には本人の好む食事が提供されたり地域の食堂からの出前を取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立を作成しバランスの採れた食事を提供している。職員は衛星指導を受け1日の食事量、水分量を入力して食事形態についても柔軟に努めている。問題発生時には随時職員間で話し合い改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨き習慣を徹底している。一人で出来ない利用者は口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄を把握し、トイレ誘導、声掛けでプライバシーを配慮しながら気持ちよく排泄出来るよう努めている。	プライバシーに配慮しながら、個別の排泄パターンを把握し、トイレやポータブルトイレに誘導して快適な排泄ができるよう努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の水分摂取量、排泄の記録で予防している。。又適度な運動、散歩等でスムーズに排便が出来るよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	週2回の入浴を設けているが体調や本人の希望で柔軟に対応している。利用者に合わせた入浴方法で支援している。	入居者の状況に応じながら週2回の入浴が提供されている。一般浴槽に入浴できない身体状況の方には特殊浴槽を使用する等、個々に応じた支援がされている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合った居室の灯りの調整をしたり、安心して眠れるように寄り添って対応している。午睡時間を設け、ソファや居室で休めるよう個人に合わせた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が個々の傷病や服薬内容を一覧表で把握している。副作用についても理解出来るように心掛けている。服用の確認をし誤薬などが無いよう心掛けている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食器拭きやおしぼり量など利用者に合った役割で楽しみややりがいを持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ影響で外出は出来なかったが落ち着いた際には冬期間を除いて月1回の野外活動を計画している又食事会では本人の食べたい物を事前に聞き出掛けている。	コロナ禍で外出支援はできていない状況にあるが、事業所周辺の散歩や車両から降りないドライブの支援がされている。受診の帰りに時間を設けたり、今できる範囲内での工夫がされている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を手元に持ちたい利用者には、少しの金額を所持する事で満足感が得られている。管理出来ない利用者は事務で預かりいつでも必要な時に使えるよう努めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が出来る利用者は施設に設置されている公衆電話を利用したり、操作が困難な利用者には職員が家族とのやりとりを支援している。家族からの要望が有れば、携帯電話を設置し会話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間に四季を感じられるような飾り付けを心掛けている。リラックスできる生活空間に心掛けている。	落ち着いた木材が使用され、天井も高く高級感のあるソファが置かれている。季節感ある装飾がされ、居心地のよい空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	四季に合った写真や行事等で撮った写真等を展示している。テレビ前にはジュウータンを敷きソファを設置雑談をしたりDVD鑑賞ができるように努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁ボードを設置し家族の写真、思い出の写真飾り居室内は本人の希望に沿い、使い慣れた空間に努めている。使い慣れた時計、鏡、テレビ等を持参してもらい居心地の良い場所に心掛けている。	家族の写真や手紙が飾られていたり、使い慣れたテレビや小物が持ち込まれ、落ち着けるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者のADLに合わせてベットに介助バー、ユニット内ソファにはタッチアップを設置し、自立出来るよう配慮している。利用者居室には名前、本人が分かる目印等を付け支援している。		